

地域活性化の旗手を育成する

地域マネジメント研究科 教授・研究科長

なかむら まさのぶ
中村 正伸

東京都千代田区出身。明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。会計系経営コンサルティング会社社での実務経験を経て、2015年より地域マネジメント研究科准教授。プロジェクト、特にアジャイルプロジェクトの、マネジメント・コントロール・システムの研究に取り組む。専門は管理会計、マネジメント・コントロール・システム。趣味は阿波踊り。



経営の目線で組織を運営できる人材を育成

「地域マネジメント研究科」は社会人向けの専門職大学院の中でもビジネススクールに分類される大学院で、2004年に設立され、修了生は間もなく600名となります。リカレント教育に先駆けて取り組み、地域（香川県・四国・瀬戸内）と地域外とで人やモノ、お金、情報の行き来を自らの意思で、リーダーとして創造するような人材の育成を通じて社会に貢献することを使命としています。

そのため企業だけでなく、行政やNPO、医療機関や教育機関など、自身の所属する組織の都合だけに捉われることなく、地域としての動きをつくり出せる人材の育成に注力しています。実際に学生を、従来のビジネススクールのメインターゲットである営利企業だけではなく、香川県庁や高松市役所など地方自治体や行政関係者、医療関係者や教育関係者など様々な組織から迎えていることが大きな特徴といえます。以前から地域マネジメント研究科は、営利企業のためだけのMBAではない、ということ打ち出してきましたが、学生の所属組織の急速な広がりを実感しています。経営目線で組織を運営していく人材が広く求められて

いるのでしよう。年齢層では下は22、23歳から上は60歳代の方まで、起業を考えている方から経営者など経営に携わる方、もちろん組織の中堅人材に加え、子育て中のお母さんなど、実に幅広い層が学びにきています。1学年の定員は30名ですが、約2割程度、起業や公務員試験を目指す、大学卒業直後の学生や留学生も在籍しています。

2年間の最終ゴールは修士論文に相当するプロジェクト研究ですが、そのために経営や経済に関連する科目に加え、地域公共系や観光に関する科目、定量的・定性的なデータ分析の方法に関する科目や、四国に焦点を当てた科目も開講しています。これは四国に拠点を置く企業の経営者や県知事、市長、中央省庁の最先機関のトップの方を招くだけでなく、NPOや地域作りのリーダーなどにも講義して頂く授業になっています。香川を拠点とする中小企業の経営者に、経営の工夫や苦労を語って頂く授業もあり、幅広く学べる環境を整えています。1年目は前述の授業科目の履修を中心に、座学に加え、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク等を繰り返します。2年目は、授業科目の履修に加えて、プロジェクト研究を進めていきます。自身の問題意識にそった研究テーマを設定した上で、現地調査、イン

地マネ、ラジオ出演してます

在校生・卒業生の声はこちらから



FM香川「ラジオで学ぼう! MBA地域マネジメント研究科」では、取り組むプロジェクト・研究の成果やプロセスなどお話しし、未来のMBAホルダーの皆様へ熱いメッセージをお届けしています。



ラジオで学ぼう!
MBA「地域マネジメント研究科」VOL.7
(第7回 2024年1月18日放送)
優秀プロ研:S社における男性の育児休業取得と夫婦間の相互プロセス
出演:18期修了生 久森 陽一・地域マネジメント研究科 教授 吉澤 康代

世代・業種を超えた人的ネットワークが財産に

標準修業年限の2年で経営学修士(専門職)MBAを取得することができますが、2年間の学びの機会として授業外でも、香川大学の地域人材共創センターと協業して行っている各種リ

タビュー調査、アンケート調査も駆使して、最終成果にまとめます。形式として、ビジネスプランとして最終成果をまとめることも可能です。最終成果はプレゼンした上で、教員全員の最終審査を受けて頂きます。テーマは所属している組織の経営戦略や人材育成についてなどはもちろん、例えば地域における自治会の役割や寺院の役割、小豆島の観光地としてのあり方についてなど多岐にわたります。

カレント専門講座を中心に、アントレプレナーシップ育成に関するプログラムの機会もあります(一部有料)。地元の広告代理店と共催で行うビジネスプラン・政策提言のコンテストへの参加も積極的にお勧めしています。1年生だけで取り組むシンポジウムは、企画から講師の決定、運営まで、学生が個々の強みを活かしながら、毎年実施されてきました。1年生同士の絆の醸成に大きく影響していることは間違いありません。学びの場での様々な活躍を通じ、異業種や異分野、世代を超えた人的ネットワークを築けることは修了後も大きな財産となります。他研究科との連携として、令和4年4月に開設された創発科学研究科の当時の修士課程に科目提供してきました。いよいよ令和6年4月に開設される同研究科博士後期課程にも経営学分野の教員を中心に、指導

教員としての参加が予定されています。受講生として人材を派遣している企業経営者の方々が期待する「成果を出せる人材の育成」も念頭におき、単なる学習に終わらない実践的な学びの場を研究科は在学中も修了後も用意しています。修了生については、在学中のプロジェクト研究を継続して教員がサポートしていくポストMBAプログラムも用意しているほか、同窓会との活動を通じた修了生と在校生との縦の繋がりが、同期との横の繋がりを含め、在学中だけにとどまらない、お互いを高め合える仲間との出会いが待っています。「地マネ」では一般的なMBAに地域の要素を加え、地域で活躍するリーダーの育成を通じ、地域の活性化に貢献していきたいと考えています。



ゼミでのディスカッションで理解を深める



趣味の阿波踊りを披露するユニークな一面も